**平和統一運動次世代リーダー育成のための**

**「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門及びエッセイ応募原稿フォーマット**

**■「私から始まる平和統一大賞」とは**

　朝鮮戦争によって分断された朝鮮半島と在日コリアン。先人たちが夢にまで見た「統一」はいつ来るのでしょうか？　最近の国家情勢で考えると問題があまりにも大きく見えて、何から手を付けて良いのか、わからなくなってしまうことはありませんか。しかし、皆さんが「心の壁」を乗り越えた小さな体験が、何かしら在日同胞の和合に役に立った事はなかったでしょうか？

　’為に生きる’神様主義の真の愛を根本精神として国籍と思想、組織を超越して、国内外の韓民族の和合と統一の実現を目指す平和統一聯合は、この度、皆様の「心の壁」を乗り越えた経験を、同世代や後に続いていく世代の力とするために、創設20周年記念企画としてこの賞を創設いたしました。

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | 「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門、会員及び一般部門　エッセイ募集 |
| 募集テーマ | 「私の心の壁を越えて始まった平和統一の経験」  ・自分の置かれている環境でぶつかった「心の壁」、なぜそれが「壁」であったか、どのようにして乗り越えたか、そのきっかけや周りからの言葉、勉強になったと思う自分の経験、そしてそれが在日同胞の和合、朝鮮半島の平和統一にどのように発展していく可能性があるかをスピーチ、または記述。 |
| 応募条件 | 平和統一聯合に所属している会員、担当者。または左記から紹介を受けた方。 |
| 募集期間 | 青年スピーチ部門：2024年６月16日（日）まで地方予選  会員及び一般部門　エッセイ募集：  2024年４月１日（月）～2024年６月17日（月） |
| スピーチ  原稿規程 | 【青年スピーチ部門】　５分以上７分以内（制限時間を超過した場合は減点）。  ※パワーポイント使用可。  【会員及び一般部門　エッセイ募集】800字以上3000字以内、１人１点。  ※両部門とも主となる言語を日本語で行うこと。部分的に韓国・朝鮮語、または他国の言語を使用しても良いが、日本語の意味を付け加えること。 |
| 応募方法 | Wordファイルのまま、応募フォームよりご応募ください。※ 青年スピーチ部門に応募の方も、同様に原稿を提出してください。 郵送、FAXでのご応募はご遠慮いただいております。 |
| 発表 | 2024年6月下旬　ホームページにて公開  入賞者には、メールまたはお電話にて直接ご連絡をさしあげます。  青年スピーチ部門の大賞受賞者は、７月４日東京都内の記念行事でスピーチします。その交通費は本部負担。 |

**題名：「平和統一」を引き寄せる**

**お名前：大橋 昌実**

(下記より本文をご記入ください)

人間は誰でも自身の思考や願いを現実化させる力を持つという。人間の思いが強ければ強い程、宇宙のエネルギーと共鳴し、思った通りの環境が現実世界に於いて引き寄せられるというものだ。所謂、「引き寄せの法則」と呼ばれている。勿論、この法則が真理であるかどうかを裏付けるだけの科学的根拠が明確にある訳ではないので、それを信じるかは各人次第と言われれば、それまでの話である。しかし、私は「平和統一」という平和を切望する人間であれば、誰もが焦がれるこの主題について考えた時、「平和統一」の悲願も実は「引き寄せの法則」を応用すれば、実現できる、即ち「平和統一」は引き寄せて成せるものなのではないかと発想してみたのである。私は、この一つの可能性をこの紙面を借りて、提示してみたいと考えた。

ここで紙面を大きく割いてまで「引き寄せの法則」をくどくどと説明するつもりはないので、簡潔に述べると、自分の「心」次第で、周囲との人間関係にも変化を起こせる可能性があるという事である。

例えば、人間関係に悩みを抱えている場合、自分に非が認められない限り、大抵は相手に問題の原因を探すものである。「この人は、何でこんなに人の感情を逆撫でするのか？」「自分が上手くいかないのは、相手の所為だ」「この人の性格には問題がある。少なくとも他の人達もそう思っているのだから、間違いない」などと思いがちであり、「私はこの人とは絶対に相容れる事はできない」という結論に至る事も珍しくはない。

そこで、私は考えた。眼前にいる苦手な人、葛藤を覚える人、嫌いな人、所謂「怨讐」と呼ばれる存在がどうして現れるのか？ この怨讐さえいなければ、自分の人生ももっと楽しいものになる筈なのに…。しかし、このような怨讐関係を引き寄せているのが、実は私だったら、どうだろうか？

世に「人徳がある」と評される人がいる。映画『素晴らしき哉、人生！』の主人公のように、良い友、良い師、良い伴侶に恵まれ、困った時には誰かに助けられるという人がいる。実例として、大谷翔平選手が思い浮かぶ。彼の人気は、彼のルックスや選手としての資質も然る事ながら、それ以上にその人間性によるところが大きく、あれだけの人気選手でありながら、特に周囲からの妬みや何らかの中傷、悪罵の類は、私の知る限りあまり聞いた事がなかったりする。この秘訣のヒントは、周囲への心配りを怠らず、常に誰かの為に何らかの奉仕をする事を信条とする普段の心掛けにある。特に、大谷選手は高校時代から野球選手として大成するという夢の達成要素の中に、体力や技術の向上だけではなく、「人脈」や「運」を敢えて加え、毎日のゴミ拾いを欠かさず行っていた事はよく知られている。つまり、善行によって、人間性を磨く事で、幸運を自ら引き寄せ、それが人間関係にも如実に現れているとも言える。

このように自身の良い心掛けに共鳴し、良い人間関係が引き寄せられるとすれば、逆に悪意や自己中心性に共鳴して、それらに相応する人脈が引き寄せられるとも考えられるのではないか…？2024年4月に実施された東京15区での衆議院補欠選挙で、候補者の選挙活動を妨害したある集団が、どの候補者よりも世間から注目され、話題になった件は記憶に新しい。この集団の言動は、総じて他の候補者に対する誹謗中傷に終始しており、中には女性候補者に対するセクハラとも取れる発言も含まれた。それらは、およそ政策議論とは程遠く、「表現の自由」の範疇からも逸脱する代物であった。それ以外の公序良俗に反する過激な行動や周囲を危険に曝す煽り運転とも合わせ、大概の市民からは到底受け入れられる筈もなく、殆ど支持を得られないまま、結局は警察に逮捕されてしまった。これは無理もない事だと私は思う。己れの人気取りの為に、他人を貶めてばかりでは、ただただ周囲から敵意や憎悪を引き寄せるだけである。そのような不穏な空気に満たされた軋轢の場に好んで参加したいと思う人が一体どれだけいるのだろうか？ 支持を集めるどころか、却って人心も離れ去っていくだろう。私達は、決して倣ってはならない教訓とすべきだろう。

勿論、私の主張が科学的な説得力に乏しい事は正直認めねばならない。人によっては、どれだけ良い心掛けをしても、怨讐が目の前に現れる場合もある。だが、私が重視する点は、怨讐が現れてしまった事よりも、何故、その怨讐が私にとって怨讐であり続けるのかにある。今日、80億を超える人類には、全て違う個性があり、どうしても水と油のようなタイプの人間関係もある。従って、意見や思想、性格や感情面などの理由で、合わないと感じる人はどうしてもこの世に存在する。その相手に対して、受容し難い感情が先鋭化すれば、怨讐関係にも発展するだろうから、怨讐が存在したり、「私」の眼前に現れたりする事は仕方がないと思う。その代わり、その怨讐が怨讐であり続ける事や「私」の周囲に怨讐関係が絶えない事の方に、寧ろ「私」は疑問を持つべきではないだろうか。

自身が相手に壁を感じるのは、相手に壁があるからではなく、相手と出会う前から、既に「私」の中に壁を持っていたとしたら…。 「私」に敵意や何らかの悪意を向ける人に対して、「私」の心からその人に対する憤怒や憎悪、敵意を滅却し、寧ろ「この人と友人や家族になりたい」という思いを切望したら、この人との関係に何らかの影響を与え、変化をもたらす事はできないのだろうか？ 極端な話をすれば、「私」の不幸や破滅を願う相手がいたなら、「私」は寧ろその相手の為に幸福と成功を願ったら、どうなるのか？

中には、そのような気持ちを持つ事そのものが、人の感情としてあり得ないと思われるかもしれないし、「お人好しにも、程がある」と嘲笑されるかもしれない。だが、考えてみて欲しい。憎しみに憎しみで返せば、新たな憎しみを生み出す「憎しみの連鎖」の問題は、平和と戦争を考える時、常に立ちはだかる厄介な課題である。一方が相手を呪えば、相手も呪いで応酬し、際限なく争いは続く。だが、呪ってくる相手に逆に「祈り」で返せば、これは完全に双方嚙み合わなくなる。お互いに負の感情をぶつけ合えば、そこには「負」のエネルギーばかりが膨れ上がるが、一方が相手を思う心で対すれば、衝突の力は相殺されるし、その心が大きければ、相手の「負」の感情に感化を与え、その心が浄化されるのではないか？

勿論、相手の敵意が浄化されるまで、祈り続ける事は根気が必要である。つまり、これは「愛」と「敵意」との根競べでもある。結局、平和統一を引き寄せるには、信念と愛が不可欠である。相手が心底呆れ果てる程に、関心を向け、愛情を注ぎ続けるのだ。また、そのような根気強い愛情を注ぎ続ける「私」を保つには、日頃、心の鍛錬も必要である。それは、いつも感謝の心を絶やさないという事である。不平・不満は、憎悪や敵意と親和性が高いからだ。実際、家庭内の不和は、お互いが相手に不満を抱き、要求するところから始まる事を私は経験的に学んだ。その不満や怒りを感謝の力で浄化する事が大事だと思う。

これらの話が真理かどうかは、先ずは家族、友人など身近な関係性の中で実践し確かめてみるといい。それらの関係性の中にも目に見えない38度線が横たわっているものである。それを一つ一つ撤廃する事が、平和統一に続く何よりの捷径ではないかと思う。